編 集 後 記

本年はついに学長特別賞を授与できたことを喜ばしく思う。今年は何より「初づくし」であった。

初の学長特別賞となった鵜澤論文は，審査員の先生方から一致してご推薦いただいた。「バランスのとれた視点から独創性のある自説を導き出して」いる，また，毎年４回生の応募がほとんどだが，執筆者は２回生であることからも「高い評価が与えられるべき論文」と評された。ご一読いただきたい。

優秀賞のひとつは，初の英語論文（宮内論文）となった。また，毎年共同研究による成果報告があるが，佳作の一編は（佐藤他論文）は，19名もの学生の協力によってまとめらたものである。応募は全部で89件となり，過去最多となった。

とはいえ数や初を誇ってばかりもいられまい。ネットからの剽窃，切り貼りといった著作権侵害に等しい「論文」も散見された。法令上のことはともかく，こうした「論文」はコピーに振り回され論旨が混乱していることが多い。

学長特別賞，優秀賞をはじめとする各受賞者は，先行研究を整理し，そこから問いを導きだし，他者の意見と混同することなく自分自身の物語を書いていた。多様なテーマがあったものの，その点において受賞論文は共通しており，各審査員から高い評価を得たことを報告しておく。

最後に，審査にご協力いただいた各先生方，また，本論集刊行にご尽力いただいた学部事務室の梶谷成幼さん，教務課の竹田好一さん，総合研究所の矢伏正睦さんにお礼申し上げます。ありがとうございました。

2009年３月

学生論集刊行委員会
石田あゆう（社会学部）
鈴木　　健（経済学部）
村上　伸一（経営学部）
岡田　章子（国際教養学部）
馬場　　巖（法 学 部）